05

福島県 ホープツーリズム 総合ガイドブック

Fukushima Hope Tourism



福島県観光交流課・(公財)福島県観光物産交流協会

[知事挨拶]

ふくしまから、 持続可能な未来を探究・創造する

~想像力を働かせて、もっと深く、前向きに。一緒に学び合う新しいスタディツアーへ~

東日本大震災以来、全国の皆様からたくさんの励ましや温かいご支援をいただいておりますことに改めて心から感謝を申し上げます。

福島県は世界で唯一、地震、津波、原子力災害、そして風評被害を一度に経験し、今もなお複合的かつ多様な課題がある一方で、復興を強く願い、困難な状況に屈することなく未来を見据え、挑戦を続けている人々が大勢います。そんな福島だからこそできる"新しい学び"があります。

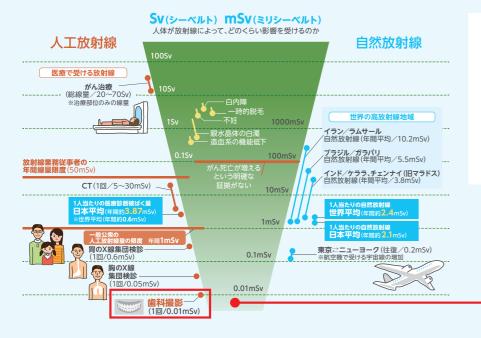
福島県では、福島のありのままの姿と復興に向け果敢にチャレンジする 人々との対話を通して、震災・原子力災害の教訓、復興、そしてこの逆境か らどうすれば脱却できるのかを考えることで、自分自身を成長させる学び の旅 「ホープツーリズム」を推進しております。

本ガイドブックでは、教育旅行、企業等の人材育成、外国人留学生等の ニーズに応じたツアー内容や学びの効果等について紹介しておりますので、 ぜひご覧いただき、福島をフィールドとした [ホープツーリズム] の実施をご 検討いただきますようお願いいたします。



福島県知事内堀雅雄

●放射線について



2泊3日のツアー時の 思辞線量

福島県内の大部分は除染や自然減により放射線量が大幅に低下しています。2 泊3日のモデルコースで浴びる被ばく線量の合計は、これまでの実績からも概ね歯科用レントゲン撮影1回の半分以下となっています。

約**0.004**mSv

[注意] 1) 数値は有効数字などを考慮した概数。 2) 目盛(点線) は対数表示になっており、目盛がひとつ上がる度に10倍となる。 [参考] (独) 放射線医学総合研究所、(公) 原子力を全研究協会[新版 生活環境放射線(国民線量の算定) [(2011年) などにより作成

参加者の声

教育旅行:教員

生徒がアクティブラーナーとなり、主体的な 学びができた。ホープツーリズムでは、問題 を自分事として捉え、対話的な解決方法を生 む力や学びに向かう力を養うことができる。

関東エリア公立高校

企業や組織の人材育成研修

福島は日本の課題の縮図。福島の課題を解決することは、復興のためのみならず、普遍的な社会課題を克服する可能性を秘めていることに気づいた。

国家公務員 内定者

企業や組織の人材育成研修

現実を直視して、そこからの解決策を真剣に考えて解を見出す。 その姿勢が福島にはある。

日本の企業には、やると決めたらやり遂げる力があると実感した。

自動車部品メーカー 社員

教育旅行:生徒

生の声を聞き、伝え、共有し、 また学ぶというプロセスが、 我々に必要な姿勢だと感じた。

関西エリア私立高校

教育旅行:教員

ツアー中に見て聞いた物事から、新たな問いも生まれただろう。そのもやもやした感覚が、次への学びの第一歩につながる。

関西エリア私立高校

留学生・インバウンド

抽象的だった福島のイメージが、「あの町であの人が言っていたように」と、ツアーを通して具体的になっていくのを感じた。

東北エリアの大学 留学生

03

実施団体一例

学校

- ●東京都 筑波大学附属駒場中学校・高等学校
- ●兵庫県 灘中学校・高等学校
- 大阪府 高槻中学校・高等学校
- 東京都 お茶の水女子大学附属高等学校
- ●千葉県 市川中学校・高等学校
- ●東京都 中央大学附属中学校・高等学校
- ●広島県 広島学院中学校・高等学校
- ■滋賀県 滋賀県立河瀬中学校・高等学校

企業

- ●一般社団法人日本経済団体連合会 加盟企業
- ●株式会社本田技術研究所 ほかグループ企業
- ●読売新聞東京本社
- ●ANAホールディングス株式会社 ほかグループ企業
- ●株式会社デンソー
- 天神橋三丁目商店街振興組合

[目次]

知事挨拶	02
参加者の声・実績団体一例	03
フィールドマップ	04
ホープツーリズムとは	06
[考える]	
フィールドパートナー	08
学びの流れ	10
[見る]	
施設	12
体験	21

[聞く]

	ジする人々 22
字校交流	25
[[]]	
	26
企業や組織の人材育成研修	§ ····· 28
テーマ:エネルギー	30
テーマ:地域づくり	31

●本誌掲載データは、2023年2月現在のものです。●内容は予告なく変更される場合もありますので事前にご確認ください。●掲載の記事・写真・図版・イラスト等の無断転載を禁じます。また、写真はすべて イメージであり実物とは異なる場合があります。●掲載の地図や縮尺、所要時間などは、おおよその目安となるものです。●この冊子に掲載された内容により生じたトラブルや損害などについては、補償いたし かねますので、予めご了承願います。



北海道・岩手県に次ぐ全国第3位の面積を持つ福島県。

その広大な県域は、地形・気候・交通・歴史などの面から、太平洋と阿武隈高地に挟まれた「浜通り」、阿武隈高地と奥羽山脈に挟まれた「中通り」、奥羽山脈と越後山脈に挟まれた「会津」の3地域に分けられ、それぞれの魅力を活かして発展してきました。

津波と原子力災害の影響を受けた浜通りを中心に、県内各地の多彩な観光・学習コンテンツを 組み合わせたプログラムの実現が可能です。

主要都市からのアクセス

東京から

- ●電車利用
- ·東北新幹線 東京駅~郡山駅(約1時間20分)
- ・吊岩線(特息びたら) 東京駅~いわき駅(約2時間30分)

礼幌から

- · 新千歳空港~福島空港(約1時間20分)
- 函館から
- ●電車利用
- 北海道新幹線 新函館北斗駅~仙台駅(約2時間40分) 仙台駅~福島駅(約20分)

大阪から

- ・伊丹空港~福島空港(約1時間10分)
- ・東海道新幹線+東北新幹線 新大阪駅〜郡川駅(約4時間5分)

福岡から

- ・福岡空港~伊丹空港~福島空港
- ・福岡空港〜羽田空港(約1時間30分) 羽田から電車もしくはバスを 利用し福島県へ
- ・福岡空港〜仙台空港(約2時間15分)

インフォメーション

●ホープツーリズムに関する総合窓□

福島県観光物産交流協会では、ホープツーリズムに関するコンテンツの集約、団体様の学びのニーズへの対応、旅行会社様の商品造成・ツアー催行をサポートする現地手配機能を兼ね備えた「総合窓口」を設置しております。

お問い合わせ先 (ホープツーリズム推進課)

へ 024-525-4060 8:30~17:30(土日祝日を除<)

□ hopetourism@tif.ne.jp

https://www.hopetourism.jp/

ホープツーリズム Q









世界で類を見ない「複合災害(地震・津波・原子力災害)」を経験した唯一の場所、福島県。 事実、教訓、復興への挑戦から得た学びを私たちはあえて「震災・防災学習」と呼ぶことはしません。 ホープツーリズムは、複合災害の教訓等から「持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する」 福島オンリーワンの新しいスタディツアーです。

地震・津波、原子力災害という世界で類を見ない複合災害を経験した福島の「ありのままの姿(光と影)」と、様々な分野で「復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話」を通したインプット。震災・原子力災害を「福島だけのローカルな問題(他人事)」と限定化せずに、教訓等を「持続可能な社会・地域づくりの実現、日常生活、自分自身の行動変容等」の"これからの未来"に視野を広げ、自分事としてどう活かすのか探究・創造するアウトプット。この一連のプログラムにより、アクティブラーニングの手法を用いた「主体的・対話的で深い学び」を実現します。福島を学ぶことで感じる希望は、参加者一人ひとりに、これからの成長につながる「学びの種」をもたらし、「明日の学びに向かう原動力」を育みます。



ホープツーリズム 3つの特徴

見る

施設見学、フィールドワークから ありのままの姿を体感

復興に向け確かに歩み出している地域、持続可能な未来を担う新しい取組が始まっています。一方、長年の避難指示による地域への影響を感じる街並み、避難指示が継続中の地域……。報道だけでは伝わらない"光と影"。その光景が、福島の「今」です。

聞く

復興に向け果敢にチャレンジする 人々との"対話"

震災、津波、原子力災害、風評……未曽有の困難の中で、それでもなお復興に向け果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。

そうした人々との対話から、多くの刺激や 気づきを得ることができます。

考える

震災・原子力災害の教訓を未来(社会・ 地域・日常・自分自身)にどう活かすか

まとめのワークショップでは、震災・原子力 災害により顕在化した様々な社会課題(人 口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題 等)は「福島だけの問題」ではなく「日本社会 や地域が抱え、解決すべき問題」であるとい う視点に立ち、自分たちがどのような未来を 創っていきたいかなどについて議論します。

[考える]

フィールドパートナー(FP)

フィールドパートナーは、ツアー中のアテンド、ファシリテートを担当します。1日ごとの振り返り(リフレクション)や、 最終日のワークショップなどを通し、中立・客観的な立場から、参加者とともに、学びの成果へと導く総合案内人です。





フィールドパートナー (FP) の担う役割

インプット 中立・客観的立場

- 震災・原子力災害、復興に関する情報の伝達
- 施設等の見学後、現地の人々との対話後の情報整理、補足説明
- ▶ 論点の明確化、多様な視点への展開
- 随所の問い立て・介入
- ▶ 参加者の探究心や学びに向かう力を引き出す

アウトプット 振り返り・ワークショップの企画・運営













一般社団法人ふくしまリアリ 代表理事

山口 祐次 さん

私自身、被災した住民の一人です。避難先での生活再建を決め、震災と向き合うことが辛い時期も ありました。だからこそ「この教訓は必ず活かさなければならない」という強い想いの中、自分の役割 に気づき、フィールドパートナーを担当することになりました。ツアーでは"学びの空間をつくりあげ る"ことが大切です。何のための学習なのか、見て・聞いて・何を感じ考えたか、どんな変化が生まれ たか……。体験から得た想いは強い原動力になります。参加者一人ひとりがしっかりと自分のテーマ を見つけ行動につなげるよう取り組んでいます。

長年、設備機器メーカーにおいて事業管理業務全般の責任者として勤務。震災で福島事業所閉鎖となり退職し、オ フィス・クリエイト福島を設立。各研修、地域企業の経営サポート、地域づくりや復興関連の業務を実施。 2022年一般社団法人ふくしまリアリを設立し、震災とその歩みの伝承、魅力溢れる地域づくりのための効果的なサ ポートに挑戦している。

平山 将士 さん 一般社団法人ならはみらい 移住促進係長

心が動く瞬間を大切にしてほしい。僕はその瞬間をサポートしたいと考えています。ツアーの参加者 にとっての非日常は僕たちの日常。その差から参加者が知ること、感じることは膨大なインプットに なります。その中でこれからの生活に生きるヒントや教訓がこぼれてしまわないように参加者やツ アー全体を洞察する。より多くの気づきをこのフィールドで得てほしいのです。

参加者ひとりひとりにとっては一度きりかもしれない場です。その一度でなにかしらのきっかけを発 見できるよう導くことができるフィールドパートナーを目指しています。

福島県いわき市の地方新聞に20年余勤務し、主に社会部記者として報道の現場を歩く。東日本大震災時は、震災の 記憶を残す報道写直集の企画・制作を担当。2018年4月に一般社団法人ならはみらいに入社。みんなの交流館なら はCANvasの開館に携わり、現在は移住促進係長として全町避難からの復興の道を歩む楢葉町のまちづくりに挑戦

一般社団法人ふたばプロジェクト復興支援員 小泉 良空 さん

中学生の時に、震災と原発事故、それに伴う避難を経験しました。以後、この地域がネガティブな 意味で注目されることが増え、「このまま終わらせたくはない」という想いが強まりました。地元が 大好き!その気持ちから、この地域に帰ってきてフィールドパートナーを始めました。

ここで生まれ育った自分だから伝えられる、あの日までの町の風景。そしていま、まちづくりの現場 に立つ自分だから伝えられる、あの日からの町の動き。中立・客観的立場で参加者に伴走しながら、 この地域の状況や事象の賛否ではなく、事実を伝えることを大切にしています。

プロフィール・

福島県大熊町出身。2021年5月から双葉町の復興支援員として、まちづくり会社のふたばプロジェクトに勤務。旧双 葉駅舎に常駐し、案内業務や情報発信、伝承事業を主に担当している。双葉郡で起こった出来事の事実や現状・少し ずつ前進していく姿を、この地域で生まれ育った1人としての視点も持ちつつ伝えている。

一般社団法人まちづくりなみえ 事務局次長

菅野 孝明 さん

フィールドパートナーとして、「事実を伝える」・「共に考える時間」・「考え続ける意識の醸成」を大切に しています。それを実現するために、相互理解につながる対話の場をつくることが、ホープツーリズ ムのフィールドパートナーの重要な役割です。

参加者は真剣な眼差しで話を聞き、感じたこと・考えたことを率直に伝えてくれます。実際に「来て、 見て、感じて、共に考える」ことが、福島だけではなく、自分の地域や社会全体の未来につながりま す。「福島から学ぶ」場をつくり続けます。そして、私たちは参加者と共に学びに向き合う存在だと 思っています。

プロフィール

建設コンサルタント、進学準備教育企業を終て、2012年にNPO法人ETIC.の「右腕プログラム」浪汗町復興支援コー ディネーターに採用。被災地復興、まちづくり計画作成・調整支援、住民との合意形成支援などに従事。現在は一般社 団法人まちづくりなみえの事務局次長として、避難等による人口の大幅減からの新たなまちづくりに挑戦している。

学びの流れ

ツアー行程中は毎日、夕食後に「振り返り(リフレクション)」の時間を設けるほか、ツアー最終日には「見る」「聞く」を通じて学んだことを 深め、アウトプットするワークショップを実施します。このワークショップでは、震災・原子力災害により顕在化した様々な社会課題(人口 滅、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等) は「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が抱え、解決すべき問題」である という視点に立ち議論します。



事前学習

ツアーに入る前に、震災・原子力災害の基礎知識(福 島県の概要、被害状況、復旧状況の推移等)を解説。 さらに学びの意識づけとして、ホープツーリズムの学 びの特徴や多角的に物事を知る視点をレクチャー します。(オンラインでの事前学習にも対応。)



1日の振り返り(リフレクション)

毎日、夕食後に振り返り (リフレクション)を行い、疑 問や気づきなどを共有することで情報を整理。ス ムーズに最終日のワークショップに臨むことができ ます。仲間同士でも、感じ方や考え方には違いがあ り、語れば語るほど視野が広がります。



ワークショップ

最終日にはまとめのワークショップを実施。ツアーで の学びを踏まえ、次世代を担う自分たちは、どんな 未来を創っていきたいかについて、ひとりひとりが社 会を担う当事者として「自分事化」します。



持ち帰り・学びの成果

"もやもや感"を 持ち帰る

社会課題は簡単に解決しな い ("もやもや感"を持ち帰る) が、「考え続けること(探究 心・自分事化)」が重要。

多様性の尊重と 対話の重要性を学ぶ

社会課題は立場や考え方に よって様々な意見がある。「多 様性の尊重と対話の重要性」 AorBの二者択一ではなく、 議論によって第三の道(C)が 開かれることもある。

情報過多の社会における「物 事の本質を見極める力」や

聞きした生の情報の重要性。

変化や逆境への向き合い方 (人生観・生き方)。 「判断力(リテラシー)」を身に つける。情報とどう向き合い 選択・判断するか。自分で見

「見極め力」「判断力 を身につける 向き合い方を学ぶ

進路選択や生き方について 希望と不安の狭間に立つ生 徒の皆さんに、挑戦すること の大切さを伝える。

変化や逆境への

福島で感じた希望。それは明日の学びの原動力 ▶▶ 参加者自身の成長へ!

事例

- 筑波大学附属駒場中・ 高等学校
- ●灘中学校・高等学校 ●高槻高等学校

進学校3校が合同研修を実施。震 災・原子力災害を福島だけのロー カルな問題と限定化せずに、これ からの未来に視野を広げます。地 域の人々や参加者同士の交流に より、自分事としてどう活かすか を探究・創造する深い学びを実現



広島学院高等学校 原発廃炉学

高校2年が選択するゼミのひとつ 「原発廃炉学」では、原発と廃炉に 関わるさまざまな立場の人々と対 話。ホープソーリズムを通して、体 験的な学びから視野を広げる リーダー教育を目指しています。



千葉商科大学 人間社会学部

社会問題が顕著化した震災・原子 力災害後の福島県で、行政・企 業・地域の人々が協働する様子を 学習。アクティブラーニングの中 で、多様性が尊重される社会を目 指して、地域社会の課題を解決す る力を育みます。



読売新聞東京本社 新人記者研修

新入社員研修としてホープツーリ ズムを活用。震災・原子力災害の 被害や影響の大きさを知り、実際 に現地を訪れ、復興の道のりや現 状課題を自身で見聞きすること で、正確な情報伝達や情報リテラ シーを養います。



[見る(施設)]

東日本大震災・原子力災害伝承館









正にホープツーリズムの学びの導入拠点。館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原子力災害直後から現在までの経過・復興のあゆみの全体像を学ぶことができます。

世界でも類を見ない未曾有の複合災害の記録やそこから得られた教訓、そして復興の歩みを国内外に伝え、さらには将来へ引き継いでいくためにつくられた施設です。福島だけが経験した原子力災害を伝えること、これまでの復興の過程を収集・保存・研究し、風化させることなく後世に継承し、また世界と共有することを目的としています。館内にはさまざまな資料や実際の記録や映像などが多数展示され、震災・原子力災害直後から現在までの経過や復興の歩みについて学ぶことができます。

a.震災と原子力災害の全容を映像で見た後、パネル展示を見ながらスロープを上がる。 b.津波被害を受けた消防車を展示。

c.東京電力福島第一原子力発電所をジオラマで見ることができる。 d.自然に溶け込むような外観。屋上からは海側を一望できる。

國双葉町大字中野字高田39 週0240-23-4402

| 周辺施設 |

双葉町の復興に向け、人と人とをつなぐ、交流を育む拠点

双葉町産業交流センター

双葉町の復興をけん引する中野地区の複合施設で、貸会議室や貸事務所のほか、フードコートや土産物店等の商業施設が入ります。町民や町内の企業関係者、周辺地域を訪れる人などが交流する拠点になること、さらには新たな価値を生み出していく場所になることを目指しています。



國双葉町大字中野字高田1-1 **週**0240-23-7212

| 周辺散策 |

町並みを歩いて肌で感じる震災の爪痕

JR双葉駅周辺

JR双葉駅を中心とした町の旧特定復興再生拠点区域(居住が制限されている帰還困難区域内のうち、将来的な避難指示解除を目指すエリア)。解除後も、震災直後から手付かずの建物が残る一方で、希望にあふれるウォールアートが地域を彩り、町の再生を肌で感じることができます。



1000 双葉町大字長塚字町西

[見る(施設)]

震災遺構 浪江町立請戸小学校



海岸から約200mに立地。校舎は津波に呑まれ半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。 今なお被災当時の様子がほぼそのまま残っています。

福島県では初となる震災遺構。震災の脅威や教訓とともに、地域の記憶や記録を後世に伝えるため、また、防災意識を高めることを目的として、被災当時の姿を保存しています。津波の被害が大きい1階の教室部分と体育館は限りなくそのままに近い状態で残され、校外や通路などからも見学できるよう整備されています。2階部分には震災の被害の大きさや原子力災害による避難の経緯などについて伝えるパネルのほか、訪れた人が黒板に書いた応援メッセージなどが保存されています。

a.展望台に据え付けられた時計の針は津波到達時間で止まっている。 b.放置された保健室の場所を示す札。 c.泥にまみれた資料も生々しく残されている。 d.卒業式の看板が掛かった体育館の内部。
励浪江町請戸持平56 週0240-23-7041

| 周辺散策 |

津波被害の状況を一望できる高台の共同墓地

浪江町営大平山霊園

海岸から約2km離れた高台に広がる共同墓地。請戸地区や太平洋を一望でき、津波の被害の甚大さを感じます。地震発生直後、請戸小学校の生徒が避難に向かった場所で、当時は畑が広がっていました。その後町民の希望により、震災によって亡くなったご遺族のためのお墓がつくられ、「大平山霊園」として整備されました。犠牲者への鎮魂、後世への訓戒のために建てられた慰霊碑とともに、震災の記憶を今に伝えています。

面浪江町請戸



13

[見る(施設)]

Jヴィレッジ



日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンターでサッカー日本代表の合宿も行われました。震災直後は原子力災害の対応 拠点として使用されていましたが、復旧が進み、2018年7月に一部営業を再開。2019年4月には全面再開を果たしました。

浜通りに位置し、東北地方にありながら温暖な気候のため、冬季でも雪の影響をあまり受けることなく年間を通してサッカーを楽しめます。施設面積は、東京ドーム 10個分となる49haにも及び、天然芝や人工芝のピッチはもちろんのこと、全天候型サッカー練習場、レストランやホテル、ホール、フィットネスジムなども備えた一大 トレーニングセンターです。スポーツだけでなくさまざまな分野で多くの人が集い、復興のシンボルになることが期待されています。

a.施設面積は49ha。東京ドーム約10個分。b.全面が膜屋根に覆われ、気象条件に左右されず利用が可能な全天候型練習場。c.166席の階段教室スタイルのコンベンションホール。 団楢葉町山田岡美シ森8 週0240-26-0111

| 周辺散策 | -

太平洋を一望できる絶好のロケーション

天神岬スポーツ公園

キャンプ場、温泉、宿泊施設が一体と なった、総合レジャーエリア。さらには 広大な芝生広場やサイクリング場、 ドッグランなども整備されており、ここ だけで泊まって、食べて、思いっきり遊 ぶ、が叶います。海岸沿いの岬にあ り、太平洋を見下ろすロケーションが



励楢葉町北田天神原27-29 間0240-25-3113

町の新たな特産品 熱帯フルーツを開発

トロピカル・フルーツミュージアム

園にあるフラワーセンター内の園芸 ハウスを亜熱帯に近い環境にし、国産 熱帯フルーツ栽培を行っています。町 の新たな特産品として国産バナナ「綺 麗」を開発。農業と観光の再生のた め、今後もさらなる特産品を生み出す ことを目指しています。



励広野町下北迫大谷地原57-1 間0240-23-7704

[見る(施設)]

福島県環境創造センター交流棟コミュタン福島







震災・原子力災害の概要、放射線の正しい知識、 これからの福島における環境の未来について学ぶことができます。

愛称は「コミュタン福島」。放射線や環境問題を身近な視点から理解するため、福島県が設置した施設です。環境の回復への意識を深めてもらうため、模型や映像、 グラフィック等により、震災と原子力災害、放射線や福島の環境の現状について展示しているほか、360度全球型シアターやホールなども備えています。コミュタン 福島で得た学びや、体験から得た知識、深めた意識などを共有し、福島の未来を考え、行動するきっかけとすることが目的です。

a.東京電力福島第一原子力発電所を再現したジオラマ。b.震災・原子力災害当時の新聞を展示。c.放射線量を測定できる装置など、さまざまな体験を通して学べる。 励三春町深作10-2(田村西部工業団地内) 週0247-61-5721

周辺施設

福島県の農業の未来を支える拠点

福島県農業総合センター

農業に関する技術開発など を行う福島県の農業振興拠 点。震災·原子力災害以後 は、放射性物質の除去や低 減、農林水産物の放射線モ ニタリング検査、営農再開 や農業再生に向けた取組を 行っています。



國郡山市日和田町高倉字下中道116 間024-958-1706

世界最先端の再生可能エネルギーに関する研究拠点

産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所

福島県を「再生可能エネルギー先 駆けの地」とするために整備され た研究開発拠点。再生可能エネル ギーに関する新技術を生み出し発 信することを目的とし、研究開発や 人材育成などを行っています。



励郡山市待池台2-2-9 **周**024-963-0813

見る(施設)

田本原子カ 研究開発機構 **楢葉遠隔技術開発センター**







東京電力福島第一原子力発電所の廃炉を推進するために遠隔操作機器の開発・実証実験を行う研究施設。 ロボットの遠隔技術や原子炉建屋内の一部を再現したVRを体験し、最先端の廃炉研究を見学することができます。

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業を進めるための技術開発と実証実験を行う施設。作業訓練に活用可能なバーチャルリアリティシステムやロボットシミュレータなどを備えた研究管理棟と、ロボットの試験設備を有した試験棟で構成されています。廃炉に向けたさまざまな実規模(モックアップ)試験が行われており、効率的で高度な遠隔技術開発が可能です。遠隔技術に関する研究開発を進めるとともに、情報発信も行うことで、遠隔技術開発の拠点となることを目指してつくられました。

a.廃炉研究にはドローンも使用されている。b.実際の大きさの原子炉建屋を模型で再現。c.広大な内部ではさまざまな実証実験が行われている。 団 横葉町山田岡仲丸1-22 園0240-26-1040

[周辺散策]

町民の想いが詰まったみんなのお家

みんなの交流館 ならはCANvas

楢葉町の中心部にあるコンパクトタウン「笑ふるタウンならは」 内に建設された交流施設で、町民ワークショップで語られた想いをもとに設計されました。リビングのようにくつろげる空間やキッズスペースなどがあり、楢葉町民はもちろん、地域や世代を超えて愛されてほしいという願いが込められています。出会い交流・つながり・発見・挑戦が生まれる"こころの復興"を目指す施設です。

励楢葉町大字北田字中満260 週0240-25-5670



[見る(施設)]

とみおかアーカイブ・ミュージアム







「複合災害を地域の歴史に位置づける」をテーマに、東日本大震災と原子力災害により突然奪われた日常を、生活者の目線から伝えています。生じた震災遺産ともに、「あの日」を境に起きた町の変化を知ることができます。

情報発信を中心としたタウンギャラリーに、震災遺産と原子力災害の経験・教訓を伝える展示室、およそ5万点にものぼる資料を保管する収蔵庫と、館内は大きく3つのエリアに分かれています。町民の生活や地域にまつわる資料と震災により生じた遺産を展示することにより、突然奪われた「当たり前の日常」や「あの日」を境に起こった町の変化を伝え、自然災害や原子力災害の経験を未来に継承することを目的としています。町の学芸員が常駐しているため、希望すれば展示解説が受けられます。

a.震災や津波のほか、原子力災害による避難など、さまざまな理由により針を止めた時計を展示。b.2019年に解体した「JR夜ノ森駅」の一部を再現。 c.避難誘導中の2名の警察官が犠牲になった被災パトカー

國富岡町本岡王塚760-1 週0240-25-8644

| 周辺施設 |

事故当時の状況や廃炉事業について公開

東京電力 廃炉資料館

東京電力の情報発信施設。映像やジオラマの展示 により記録を残すとともに、今後も続く廃炉の進捗 状況について学ぶことができます。

富岡町大字小浜字中央378 週0120-502-957



双葉郡のリアリティをダイレクトに発信

ふたばいんふぉ

双葉郡8町村の現状を共有し、広く伝えるための情報発信拠点。住民目線での震災・原子力災害の捉え方、現在までの双葉郡の歩みを知ることができます。



周辺散策

立ち入り規制が緩和された、富岡の復興拠点

夜の森地区

原子力災害により立ち入りが制限されていた地域。帰 還困難区域の線引とともに夜の森の桜並木も分断され ていましたが、2022年、立入規制が緩和されました。

励富岡町夜の森



[見る(施設)]

特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

| 体験しながら学べる|| | |





a.タッチパネルにふれながら楽しく学べる。 b.埋立処分場の模型を使って説明してくれる。 **圀**富岡町大字上郡山字太田526-7 園0240-23-7781

放射性物質に汚染された廃棄物等の埋立処分について学べる、体験型の情報館。埋立処分事業の概要や必要性、安全対策、進捗状況などについて、「動かす」「さわる」「あそぶ」をコンセプトに、体験しながら理解することができます。事業の安全性について広く知ってもらうことを目的としています。

[見る(施設)]

中間貯蔵施設(中間貯蔵工事情報センター)





a.職員の案内付きで中間貯蔵施設のフィールド内を見学 b.広大な敷地の中間貯蔵施設について、 図面を見ながら説明 団大熊町小入野向畑256 園0240-25-8377

除染により発生した土壌等を最終処分までの間、安全かつ集中的に貯蔵するための「中間貯蔵施設」の見学が可能です。また、中間貯蔵工事情報センターでは、中間貯蔵施設工事の概要や工事の進捗状況、安全への取組を紹介しているほか、除染土壌等の処理の流れを展示や映像などを通して学ぶことができます。

[見る(施設)]

富岡復興メガソーラー・SAKURA





a.11万枚も切み電流パイルを見明古から一室できる b.発電所や発電施設について、 説明を聞くことができる。

図富岡町大字上手岡字大石原(下千里地内) 間0240-23-5154

震災と原子力災害の影響で増えた町内の遊休農地を活用してつくられた太陽光発電所。およそ11万枚もの太陽光パネルを設置し、その年間発電電力量は一般家庭約9,100世帯の年間消費電力量相当にものぼります。発電所内には見晴らし台があり、見学が可能。売電した収益の一部を地域復興に役立てています。

[見る(施設)]

福島ロボットテストフィールド





a.ドローン等での実験にも対応が可能。建物からは広大な敷地が見渡せる。 b.トンネルや橋梁、市街地、道路などが敷地内に整備され、災害環境を再現できる。 **団**南相馬市原町区萱浜新赤沼83(南相馬市復興工業団地内) **因**0244-26-3431

浜通りの産業回復のための国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」により整備された、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点。南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地内に、インフラや災害現場など実際の使用環境を再現し、ロボットの性能評価や操縦訓練等を行っています。

[周辺散策]

「あの日」のままの風景が、 残るエリア

国道6号

浜通りを南北に縦断する国道6号は地域の主要道路のひとつです。帰還困難区域内の家屋や店舗の入り口には、10年以上バリケードが設置され、時が止まったような光景が広がっていました。現在も朽ちた建物が残る一方、徐々に建物の解体が進み、新しい町並みへと再生が始まっています。





※バリケードは現在撤去されています。

周辺施設

世界最大級の水素製造施設

福島水素エネルギー研究フィールド

世界最大規模の水素エネルギーシステム。水素を製造し、貯蔵・供給する、低コストな水素製造技術の開発を目指しています。2021年に開催された東京五輪の開会式において、聖火台の燃料としてここでつくられた水素が使用されました。



励浪江町大字棚塩(棚塩産業団地内)

震災以後の放射線量を測定

福島県環境創造センター 環境放射線センター

環境放射線センターは、原子力発電所周辺のモニタリングや、空間放射線の常時監視を行うための施設です。別棟にある校正棟は、放射線計測機器が正確に放射線量を測定するため必要な、"校正"を行います。



19

励南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-169 **週**0244-32-0822

記憶の伝承、想いが集まる場所

相馬市伝承鎮魂祈念館・慰霊碑



津波により被災した相馬市の震災前の風景を後世に伝え、来訪者の交流を図ることを目的として建設された施設で、犠牲者への追悼の意が込められています。震災関連の写真や震災当時の津波の映像などを見ることができます。

励相馬市原釜字大津270 **週**0244-32-1366

ホップとビールで「人」「もの」「こと」の循環をつくる

ホップジャパン



田村市内の委託農家で栽培されたホップを使用する都路町のブリュワリー。 1次産業から3次産業を一貫して行う6次化に加え、廃棄される材料を自然に返す0次化の取組に挑戦しています。

励田村市都路町岩井沢北向185-6(グリーンパーク都路内) <u></u> **10247-61-5330**

川内村の賑わい創出の起点

かわうちワイナリー



震災復興、新たな農業への挑戦、地方創生の取り組みの一環として、村内で収穫するブドウからワインを生産することを目指して発足。2021年春には村内産のブドウを活用したワインが完成しました。

圓川内村上川内大平2-1 圓0240-25-8868

支援の輪が広がる、おもいやりの兵糧蔵

相馬市防災備蓄倉庫 相馬兵糧蔵



震災の教訓をもとにつくられた、多機能型の防災備蓄倉庫。災害時に備え、毛布や水、米などを蓄えているだけでなく、太陽光発電パネルや非常用発電機、緊急離発着ヘリポートなども有しています。

励相馬市坪田字宮東25 **週**0244-35-3300

ITCを活用した最先端技術で農業復興

株式会社ネクサスファームおおくま



大熊町に2018年に設立。栽培面積2.2haの太陽光利用型植物工場でいちごの栽培・販売をしています。2019年にはGLOBALG.A.Pの認証も取得し農業の再生に挑戦しています。

励大熊町大字大川原字西平2127 **週**0240-23-7671

いわき市の震災経験を将来にわたり発信

いわき震災伝承みらい館



震災関連の資料や映像、パネル展示、語り部の講話などを通し、震災の記憶や 教訓を確実に後世へと伝えていくための施設。復興に向けた取組を伝えることや、災害に対する危機意識や防災意識の向上なども目的としています。

励いわき市薄磯3-11 週0246-38-4894

見る(体験)

世界に1つだけのオリジナルの大堀相馬焼を作れます

大堀相馬焼体験

浪江町が誇る地場産品「大堀相馬焼」の陶芸体験。原料の土から手練りし、ろくろを使った 形作りや絵付けにも挑戦できます。世界に1つだけの大堀相馬焼を作ってみてはいかがで しょうか。窯場にはガス釜と電気釜を1基ずつ設置。焼きあがる時の、大堀相馬焼特有の 「青ひび」が入る瞬間に鳴る「ピーン」という美しい貫入音も魅力のひとつです。

道の駅なみえ「なみえの技・なりわい館」

町の復興のシンボルとして誕生した道の駅。買い物・食事・休憩ができる、暮らしを支える施設です。野菜や海産物などが並ぶほか、地元のグルメも味わえます。 図浪江町大字幾世橋字知命寺60 園0240-35-4917





海が見える圃場でボランティア

ワイン用ブドウの苗植え・圃場の除草

海を一望できるワイン畑で、ブドウの苗植えや剪定、圃場の除草作業を体験できます。ワインを通して人々の交流や新しい産業が生まれ、着実に前進する地域の息吹を感じることができます。企業CSR活動としての活用も可能です。(時期や天候によりプログラムに変動がございます。)

一般社団法人とみおかワインドメーヌ

震災と原子力災害からの町の再生を目指し、ワインを核にした活動を行っています。2016年からブドウ栽培を開始し、2020年に初めてのワインを完成させました。 **団**富岡町小浜438-1 園0240-23-7606





楢葉町の新しい農業スタイルを体感

さつまいも苗植え・収穫体験

楢葉町内各地に点在する畑でさつまいもの苗植えや収穫を体験できます。沿岸部を中心に 広がる総面積40ha以上。農作業を通して、震災と原子力災害の影響やそれからの復興に ついて知ることができます。(時期や天候によりプログラムに変動がございます。)

株式会社福島しろはとファーム

間fukushimafarmer@shirohato.com





採れたて新鮮! 絶品トマトを思いっきり堪能!

トマト収穫体験

温室で1年中トマト狩り体験を楽しめます。フルーツトマトなどを含む、色も形もさまざまな最大5種類のミニトマトを袋一杯に収穫できます。味見をして、気に入った品種だけを収穫するのもよし、いろいろな品種を採って食べ比べるのもよし。もぎたてのトマトはまさに極上。おみやげにも最適です。大玉トマト狩り体験も実施しています。

株式会社ワンダーファーム

レストラン・直売所・加工工場を備えた体験型ファームです。トマトを栽培するトマトハウスも隣接しており、食・収穫・買い物を存分に楽しめます。 励いわき市四倉町中島字広町1

圆0246-85-5105







考える入口、考えるきっかけを作りたい

「語り人(かたりべ)」の役割は、体験したことを語るだけではなく、富岡町のような地域をどうするのかということを問いかけることだと思っています。町が復興災害から再興していくところまでは語り続けなければならない。人間が死んだとしても言葉は残るし、これまでも言葉で紡いできた歴史があります。だから特に若い世代に伝えていきたい。私たちが活動する意義はそこにあると考えています。

被災した人たちが立ち直っていく様は、私たちが大事にすべきことや当たり前の日常の大切さを改めて気づかせてくれました。人が壊したものは人が作り直すしかない。そう思えたとき、自分が生きている意味や、使命感のようなものを感じました。そして、最後まで富岡町と一緒に生きようと心に決めました。

失われたものがもう一度再生していくところに自分もいたいし、見ていたい。そして自分も力になりたい。町をこれからどうするか、そんな夢のようなことが語れる場所はほかにはありません。都会では夢物語だと言われるようなことも、富岡町なら1つの意見になります。

[語り人]は話すだけではなく、一緒に地元のことを考えることが重要。被災地のことを考えながら、じゃあ自分のところではどうしたらいいのか、地元のことも少し考えてみよう、と。ここ富岡町、そして福島県は、課題を見つけて持って帰って、考える、解決するという、最高のフィールドだと思います。

NPO法人 富岡町3・11を語る会 事務局 代表

青木 淑子 さん

震災数年前に県立富岡高校校長を務める。 震災後県内最大の避難先であった、郡山市 の「ビッグパレットふくしま」でボランティア に携わり、2013年より語り人(かたりべ)と して活動を開始。2016年に「NPO法人富 岡町3.11を語る会」を設立し、自分たちの 体験を自分たちの言葉で語ることで、「富岡 町の震災の実際と現状」、「被災地福島の真 実」を世に伝え続けている。

亡くならなくてもいい命を救いたい

「亡くならなくていい命をひとりでも多く救いたい。」その想いが僕をずっと突き動かしています。福島が経験した複合災害は、世界中のどこでもこれまで全く経験していないこと。今僕らがいるのは世界史の最先端。だから我々は証言者なんです。

東日本大震災の教訓を活かさなければ、あの時亡くなった方々に申し訳が立たない。これから起こる災害はもっと大きいという予測もあるし、我々の体験は必ず活かせるはずで、それは経験者がやるべきこと。僕が活動する意義はそこにあって、自分はその教訓と経験を伝えるためのスピーカーだと考えています。この目で見たことを伝えたいし、その目で他の地域を見たらどう感じるのか、自分の視界を伝えたい。福島にいるから見ているものを、どれだけ等身大で伝えていけるか。まずは僕のフィルターを見て、福島のことをわかろうとしてほしい。そうしているうちに、だんだん自分のフィルターができていくのだと思います。

「故郷」とは単なる場所ではなく、人と人とのつがなりがあるところです。だからもっと大事にしてほしい。人は独りでは生きられない。震災のせいで…というのではなく、震災のおかげで僕らは多くのことに気づくことができた。自分に同じことが起きたらどうするのか。当事者性を持つことが本当に重要。今の福島で大事だとされていることは、来てくれた人の町でも大事だということを伝えたいと思っています。

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授 一般社団法人ふくしま連携復興センター 代表理事

_{あまの} かずひこ **天野 和彦 さん**

は世

史

0

سُير

A

震災時東北最大級の避難先であった、郡山市の「ビッグパレットふくしま」避難所の運営責任者。避難所での支援活動の実体験を踏まえ、避難所運営シミュレーション「さすけなぶる」を開発。今後起こりうるとされる災害に備え、震災や福島の教訓を発信している。そのほか被災者の生活再建、コミュニティ形成のための支援活動などにも取り組んでいる。

人間の感情や人間らしさを伝えていく

私が活動を続ける上で最も大事にしていることは、現地にいないとわからない「温度感」を伝えること。感情や友情、未来を信じる気持ちなど、目に見えないもの、それに直にふれられる機会はなかなかありません。

ホープツーリズムは入口であり、きっかけです。葛尾村に来てくれた人、福島に興味を持ってくれた人と直接会えるということは、たとえ短い時間でも、その後の可能性を大きく広げてくれるので、とても大切にしています。「また来たい」と思ってくれた時に、来られる場所を作っておく。そのために少しずつ村との縁をつないでいます。

ホープツーリズムで葛尾村を訪れた子が、大学生になってからインターンでもう一度来てくれたり、定期的に村に遊びに来てくれるようになったりと、具体的に行動に移してくれる人も増えてきました。まずは知識や情報よりも感情の動きを大切に、かっこいい言葉ではなく人間らしさを伝えていくことを心がけています。

福島県、そして葛尾村と同じ経験をした場所はほかにはありません。持続可能な社会を目指す上での良い事例がたくさんあるし、日本の未来を考えられる場所ではないかと感じています。震災を通して覚えた憤りの先にある出口や、地域がどう生き残っていくかについて、じっくり考えてみてほしいと思います。そして、その先に続く地域の未来を、少しでも心に留めるきっかけになってくれたらうれしいです。

一般社団法人葛力創造舎 代表理事

下枝 浩徳 さん

23

震災後、故郷である葛尾村にUターンし、「一般社団法人葛力創造舎」を設立。葛尾村のコミュニティの崩壊を解消するため、地域コミュニティのサポートや地域の活力を支える人材の育成に取り組んでいる。また、地域の資源を活用した事業を起こすなど、事業開発を通した地域づくりにも力を入れており、人と人との結びつきを大切にした活動を続けている。

「 聞く] 復興に向け果敢にチャレンジする人々

福島には各分野で復興に向け果敢にチャレンジする人々がたくさんいます。 対話を通して、多様な視点から震災・原子力災害の状況、復興に向けた取組や課題について学ぶことができます。

住 民

「あの日」起こったこと、 住民の率直な想いを伝える

浪江まち物語つたえ隊



仮設住宅で暮らしていた浪江町民2名で結成。地域に伝わる民話・昔話をはじめ、震災・原子力災害の実話をもとに紙芝居やアニメーションを制作し、全国各地で作品の上演会や上映会を実施。ふるさとの記憶や震災・原子力災害の記憶・教訓を伝え続けています。

医療・福祉

震災を通して リーダーの素質を考える

南相馬市立総合病院 院長 おいかわ ともよし 及川 友好 さん



震災当時、東京電力福島第一原子力発電所から23kmに位置する中核病院で副院長として現場を指揮。原発の状況が深刻化する中、「病院を、患者を、スタッフをどうするべきか・・・」自らが下した決断や葛藤を題材にリーダーのあり方について語ります。

持続可能な農業を エネルギー分野から考える

一般社団法人えこえね南相馬研究機構 理事長 たかはし そうへい 高橋 荘平 さん



地域再生のため、地元農家と共同し、 農地の上に太陽光パネルを並べて発電する「ソーラーシェアリング」による 半田半エネのモデルを推進。売電の副収入により農家の収入安定化を図り、 持続可能な農業とエネルギーの地産地消を目指しています。

事業所

浪江に「ただいま」 酒造りの息吹がよみがえる

株式会社鈴木酒造店代表取締役 すずき だいすけ 鈴木 大介 さん



津波により酒蔵を流失し、原子力災害による避難を余儀なくされながらも、避難先の山形県で酒蔵を再開。町産の米を使用した酒造りで浪江町の今を発信し続けています。2021年には道の駅なみえに醸造所を開設。10年ぶりにふるさとでの酒造りを果たしました。

地域づくり

住民主体の 新しいコミュニティの構築

小高工房代表 ひろはた ゆうこ **廣畑 裕子** さん



震災後、小高区の復興に向け、「小高を応援する会3B+1」を結成。住民、事業者、来訪者などの交流拠点「おだかぷらっとほーむ」を運営。「それぞれができること、やりたいことを持ち寄り、行動を起こせるきっかけ作り」を目標に精力的な活動を展開中。

教育•人材育成

社会課題に向き合う若者を育成 ~"憧れの連鎖"が未来を拓く~

ー般社団法人あすびと福島 代表理事 はんがい えいじゅ 半谷 栄寿 さん



元東京電力執行役員。南相馬市小高 区出身。復興を担う人材育成のため、 高校生・大学生対象の社会起業塾等を 主催。「自立した若者が憧れの対象と なり、後輩が続く「憧れの連鎖"こそ、未 来を拓く原動力になる」との想いから、 次世代の育成に挑戦しています。

曲₩

農業を地域産業の中心に さつまいもで持続可能な社会へ

株式会社福島しろはとファーム



株式会社福島しろはとファームでは 40ha以上の敷地でサツマイモを栽培。 震災後、放棄された畑作を開墾して新た な営農モデル・産地の確立を目指してい さ営農・ごろに町や企業と連携して、貯蔵 設備や加工施設を造成。農業の再生と 地域雇用の促進に働きかけています。

事業所

福島の光を探す仕事地域のワクワクを追求

一般社団法人東の食の会 専務理事 福島県浜通り地域代表 たかはし だいじゅ 高橋 大就 さん,



浜通りのまちづくりと社会課題解決型 ビジネスづくりに取組む「NoMAラボ」 を立上げ、2020年に法人化。2021年 に浪江町に居住を移して浜通りでの活動を本格開始。地域の生産者にスポットをあてたPRを続けている。 地域づくり

広がる交流の輪 この町の変化を楽しむ

浪江町商工会 青年部 ぜんじ あきひろ 前司 昭博 さん



浪江町商工会議所青年部長を務め、 地域の活気づくりやPRイベントの運営 に尽力。生産者や企業、学生などさま ざまな分野層に積極的に関りながら町 内のネットワークを構築。住民主体の 地域づくりの輪を広げています。

教育•人材育成

ローカルに根差しながら グローバルな視点で地域を歩む

NPO法人ハッピーロードネット 理事長にしもと ゆみこ 西本 由美子 さん



復興を担う人材育成や地域再生に向け、高校生等と一緒に国道6号に桜の木を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」やチェルノブイリ原発事故の被災地を訪問し、国際的な視点に立った活動を続けています。

農業

新しいハブとなり 地域農業を支える

株式会社ワンダーファーム 代表取締役 もとき ひろし 元木 寛 さん



農と食の魅力を体験できるワンダー (wonder=驚嘆すべき)なファーム (farm=農場)を目指して事業設立。トマト の出荷および、農業を身近に感じる体験 型テーマパークの運営によって、農作物 の付加価値向上、地域の活性化だけでな く、農業の担い手育成に取組んでいます。

原発・廃炉

東京電力福島第一 原子力発電所の今を知る

東京電力ホールディングス株式会社 福島復興本社



福島復興本社の職員から東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況、復興に向けた取組について直接間くことができます。また、一定の条件を満たす場合は、職員のアテンド付きで、東京電力福島第一原子力発電所構内を見学することができます。

□ ◎ ② 学校交流

福島県内の学校との交流や、高校生との共同ツアーなどを通じて、福島県の高校生たちと交流することも貴重な経験です。 復興に向け様々な活動に取り組む福島の高校生から直接、同世代の想いを聞くことができます。



同世代の想いを聞く

震災当時の様子やそ の後の生活、復興に向 けた想いなど、同世代 ならではの感覚で語り 合います。



一緒にワークショップ

ともに考え、意見を交換。福島で暮らし、学ぶ同世代からは、多くの気づきを得ることができます。



福島の高校生と一緒にツアー



福島の高校生とともにツアーを実施することで、県内と県外の視点の違いに気づき、考え方や知識を共有できます。同世代の震災経験談はもちろん、原子力災害や復興への想いについて聞き、お互いを刺激し合います。

[モデルコース]

スタンダードコース

ホープツーリズムの基本コンセプト (見る・聞く・考える) を踏まえながら、学年行事規模の教育旅行にも対応可能なプログラムです。2020 年9月にオープンした東日本大震災・原子力災害伝承館を起点に、震災・原子力災害の概要、復興の現状・課題に関する基礎知識等を学習 します。その後は分野学習 (地域づくり、農林水産業、医療・福祉、原発・廃炉、エネルギー、環境回復、教育、新産業など) や各地域に分かれ、 コース別の選択学習を行うなど、目的に合わせたツアーが実現できます。







国道6号※通過

※一部、帰還困難区域

広野町・楢葉町・富岡町・大熊町・双葉町

帰還困難区域内外の町並みを 実際に車窓から見学

帰還困難区域が解除になった地域でも、震災・ 原子力災害以後、手付かずの建物が残る光景 が見られる一方、一部では除染や建物の解体 が進み、新しいまちづくりに向かう息吹を感じ 取ることができます。

対話

東日本大震災・原子力災害伝承館

伝承館の一般研修プログラムで 震災・原子力災害、復興の全体像を把握



対話

双葉町 産業交流センター

「原発・廃炉] 東京電力社員

東京電力福島第一原子力発電所の事故の概 要、廃炉進捗状況等について東京電力社員か ら直接説明を受ける他、率直な質疑応答(意見 交換)を行います。

富岡町文化交流センター「学びの森」

ゆったりとした空間で対話やワークショップを

500席の大ホールや大会議室での対話やワークショップなど、比較的大人数にも対応可 能。周囲にはとみおかアーカイブ・ミュージアムや夜の森など、学びのフィールドが点在して

復興に向けて果敢に チャレンジする人々 との対話

※2~3クラスに 分かれて、

避難所運営シミュレーション教材 「さすけなぶる」を使用したワークショップ

27

企業や組織の人材育成研修

福島県は社会課題の先進地であり、未曽有の大災害からの復興に向けて、先進技術やノウハウを生かし、地域と連携して社会課題の解決に尽力している企業が多数存在します。それは、今後の日本企業が持続的に生存し続ける新しいモデルとなりえるでしょう。地域創生に貢献している県内の企業からは、数々の成長のヒントを得ることができます。











1 泊 2 日

双葉駅発貸切バス

対話

食事

国道6号*通) *一部、帰還困難区 I

対話

4 見学 考える

双葉町 産業交流センター

双葉田

[事業者]

夢成(株) 鈴木代表

一貫した経営理念を掲げ、スタッフをはじめ、関わる人を幸せにする会社を目指し、やりがいづくりに尽力。そのおもてなしのマインドと自社の人材育成プログラムについて対話を行います。



各種弁当



県内の農家がつくる新 鮮な食材を使用した弁 当。栄養バランスにも考 慮した丁寧な弁当が人 気です。

フィールドワーク (JR双葉駅・大平山霊園・ 棚塩産業団地)

双葉町·浪江町

街中心街と津波被害を受けた 沿岸部の実状を学ぶ

避難指示が解除されたエリアでのフィールドワークから、震災・原子力災害の影響を体感。浪江町棚塩産業団地では、新産業の開発・研究の活性化を肌で感じることができます。

とみおか ワインドメーヌ

「事業者」

- (一社)とみおかワインドメーヌ 遠藤代表

ワインづくりによる地域活性化に尽力。双葉郡内を「課題先進地域」と捉え、それらを解決していくことが他地域の振興策の前例となると考え、新たな福島の価値創造に挑戦し続けています。

中間貯蔵施設

双葉町·大熊町

除染による除去土壌の 一時保管場所

2045年3月までに、福島県外に最終処分場を設置する事が決定している中間貯蔵施設。バス車窓から見学し、取組の全貌や、処理の方法について理解を深めます。福島県だけの問題ではないテーマにふれることで自分事化を促します。

Jヴィレッジ

楢葉田

【アウトプット】

まとめのワークショップ

インプットした情報を整理し、より深い対話的な研修を実現します。震災と原子力災害発生後、困難や課題に直面しながらも発展を続ける福島県内の企業。ホープツーリズムの人材育成研修では、持続的な成長を目指す新しい企業運営モデルにふれることで、経営のヒントを得て、ひとりひとりの意識の変化・成長を促進。企業を支える人材の育成につなげていきます。

[モデルコース]

『エネルギー

長年にわたり首都圏へのエネルギー供給を担い、エネルギー分野における科学 技術の発展を支えてきた福島県。原子力、火力、再生可能エネルギーなどの発電 施設等の見学やフィールドワークを踏まえ、科学技術の光と影に目を向け、エネ ルギーと地域社会の変遷、これからのエネルギーのあり方を考えます。







[モデルコース]

地域づくり

避難指示が解除された町がそれぞれに歩んできた道。双葉郡内の多くの地域は 住民ゼロからのまちづくりに挑戦してきました。コミュニティの再生・創出やハー ド面の整備など、その課題解決プロセスは、今後訪れる日本の社会問題の解決に もつながる考え方です。持続可能な地域づくりのヒントがここにはあります。





30

国道6号*通過 *一部、帰還困難区域

広野駅発 貸切バス

東京電力 「廃炉資料館」

廃炉作業の進捗を 展示や映像で学習

東京電力が運営する資料館。事故 の経緯や、そこからの廃炉の進捗 を。職員のガイド付きで説明をうけ

道の駅なみえ

「エネルギー・農業]

(一社)えこえね南相馬研究機構 高橋理事長

津波と原子力災害の影響を受けた農 業の再生と、太陽光発電の売電による 収入の安定化を目指す「半農半電」を 推進。地域に根付いた持続可能な営 農・発電方法を発信しています。

なみえ焼そば

【双葉町産業交流センター】

浪江町で親しまれてき たソウルフード。具はも やしと豚肉。うまみたっ ぷりのオリジナルソース が極太麺に絡み、食べ 応えも十分です。

福島再生可能 エネルギー研究所

エネルギー施策や 福島県全体の取組を知る

再生可能エネルギーに関する新技術 を生み出し発信する拠点。震災後のエ ネルギー施策と県内で行っている取組 について学ぶことができます。

みんなの交流館 ならはCANvas

「地域づくり] フィールドワーク・ まちづくり会社職員との対話

住民の意見を集めて設計された「みんな の交流館ならはCANvasJを中心に、コン パクトタウンを見学。まちづくり会社の職 員との対話を通して、地域が抱える課題 の解決プロセスを知ることができます。

マミーすいとん

元サッカー日本代表監 督トルシエ氏が「故郷の おばあちゃんの味」と評 したことから「マミーす いとん」と命名された名 物料理。

とみおかアーカイブ・ ミュージアム

震災・原子力災害を 歴史として捉える

震災前からの町の歴史を残した アーカイブ施設。町の長い歴史のひ とつである震災と原子力災害が、地 域にどのような影響を与えたのか を体感できる施設です。

道の駅なみえ

「地域づくり]

浪江町商工会青年部 前司昭博さん

地域活性化イベントや商品開発の事 例を紹介。住民目線のアイディアでユ ニークな取組にチャレンジする姿から は活力が得られます。

"きっかけ"は、福島で、みつかる

福島の今から伝わる、過去と未来。流れた多くの時間の中にある葛藤と決意。 課題に向き合い、あゆみ続ける人々。

ここには、"希望"を持つ人々がいる。"芽生え"を促す場所がある。

ここでつかんだ学びの種が新しい道を示しこれからの人生の糧となるでしょう。

さあ、"きっかけ"をみつけに、福島へ。

